

★今週の聖句

「しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」

ヨハネによる福音書 16:33

★ ねらい

- ・ わたしたちのいのちの主であるイエスさまのことを覚え、信頼する。

★ 説教作成のヒント

- ・ 先に天に召されたすべての兄弟姉妹を記念する全聖徒主日。すでに肉親などの死に出会ったことのある子どもたちもいるだろう。キリストと、キリストを送られた父なる神が、生きていても召されるときも、いのちをしっかり捕らえてくださっていることを伝えたい。
- ・ こどもたちはこどもたちなりに、弱さの自覚や罪の意識を抱えて生きている。「自分は天国に行けるだろうか」と不安に思う子もいるかもしれない。そのような者のためにこそイエスは来られたのだということが慰めと励ましになればよい。

★ 豆知識

- ・ ヨハネ福音書 13章～16章は、最後の晩餐の席で、弟子たちの足を洗った後に彼らに語られたとされる「告別説教」であり、今日の部分はその締めくくりである。弟子たち、またイエスが見えなくなった後の世代のキリスト者に対する励ましとして語られている。
- ・ ヨハネ福音書において「世」はキリストの対立勢力として描かれる。具体的には、初代教会と実際に対立していた当時のユダヤ教（特に祭司や律法学者たち）を主に指している。今の私たちがこのみことばを聴くときには「キリストの福音を妨げるもの」と受け止めるべきであり、それは私たちの心の中にも確かに存在する。弟子たちも「分かりました」（30節）といいながら、イエスの十字架の前に「散らされて」（32節）逃げていく。しかし、そのような私たちの弱さにイエスは打ち克ってくださるのである。

★ 説教

今日は教会では、先に天国に行った人たちのことを記念して、その人たちのことを思い出しながら、礼拝をする日です。皆さんの中にももしかすると、ご家族やご親戚の誰かが亡くなられて、すでに天国に行っている、という人がいるかもしれませんね。大事な家族だったペットが、もう天国に行っているという人もいるかもしれません。

少し聞くのが怖いと感じる人もいるかもしれませんが、「死」というのは大きなお別れです。それまで一緒にいてくれた人と、どこを探してももう会えなくなるということは、「天国にいる、神さまのところにいる」とわかっていても、悲しくて、寂しいことだと思います。

イエスさまとお弟子さんたちも、お別れをしなければなりません。お弟子さんたちは「イエス様にずっとついていきます」と言いましたが、結局そうすることはできず、イエスさまはただひとりで十字架にかかって死んでしまわれました。その後、イエスさまは十字架から復活され

ましたが、お父さんである神さまのところに帰って行ってしまわれました。これまではイエス様がいろんなことを助けてくれていましたが、これからお弟子さんたちはイエス様が見えないままで、生きていくことになりました。

でも、そのお弟子さんたちに、イエスさまは約束してくださったんです。それが今日のみことばカードのことばです。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに、世に勝っている。」お弟子さんたちは、イエス様が見えなくて苦しいときもありました。失敗するときもありました。でもそういうときのためにイエスさまはその前に、「あなたが苦しいときも、失敗してしまうときも、怖がらなくていい。見えなくても、わたしが一緒にいるから大丈夫だ」というイエス様からの約束でした。

「主われを愛す」という讃美歌がありますね。「主われを愛す 主は強ければ われ弱くともおそれはあらず…」こういう歌です。この歌の意味を知っていますか？アイスクリームの歌ではないんですよ。この歌は、「わたし自身の力は弱いけれど、神さまがわたしたち一人ひとりを愛して、一緒にいてくださるから、私は何も怖くない」という意味です。

先に天国に行った人たちのことも、いま生きているわたしたちのことも、神さまは愛して、守ってくださっています。それでも心配になったときには大きな声で「主われを愛す…」と歌って、イエスさまのことを思い出してください。きっと勇気と元気がわいてきますよ。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

60番

改訂131番

やってみよう

☆みことば風船キャッチボール

<用意するもの>

ビニール袋（人数分）・色画用紙12cm四方（人数分）・マジック

- ① 色画用紙を半分に折り、ハート形になるよう切る。
- ② できたハートに、今日のみことば「しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世にかっている。」ヨハネ16:23と書く。
- ③ ハートをビニール袋に入れて、膨らまして風船を作る。（ビーズや、残りの画用紙を小さく切ったものを一緒に入れてもきれい）
- ④ みんなで輪になって、まずは1つのビニール風船を使い、「勇気を出しなさい」と言って誰かに投げる。
- ⑤ キャッチした人は、「わたしは、すでに世にかっている」と言って、別の人に「勇気を出しなさい」と言って投げる。という感じでキャッチボールする。慣れてきたら、ビニール風船を増やしてみよう。

※再来週のために、トイレットペーパーの芯を集めておきましょう。

★暗唱聖句

「すべての人は、神によって生きているからである」

ルカによる福音書 20章 38節

★ねらい

- ・ イエスによって示された神の愛に生かされていることを知り、信頼する。

★説教作成のヒント

- ・ サドカイ派の人々が、イエスに対して質問を持ちかけている。「いま」を生きることをせず、ただ頭の中だけでの思考に捕われた彼らの論争は本質的ではなく、「死んでいる」。作り話とは言え、次々と夫を亡くした女性のことが、彼らにとっては「題材」でしかない。
- ・ 「生きているものの神」……復活のいのちは単なるこの世の生活の継続ではなく、神さまとの新しい関係のもとに生きるいのちである。どんなにイエスさまが言葉を尽くして説明してくださっても、わたしたちはその姿を完全には理解できない。ただイエスがそのいのちによって示してくださった神の愛から、わたしたちはその性質を知ることができる。

★豆知識

- ・ ある人が世継ぎを残さないまま死んだ場合、その人に一番近い血縁の人がその妻をめとる義務があった（レビラート婚、申命記 25 : 5-10）。第一には家名存続のための制度であったが、同時に、生活の手立てを得にくい寡婦を保護するための制度でもあった。
- ・ サドカイ派は当時のユダヤ教の中の一派。祭司・裕福な層を中心としていて、モーセ五書だけを聖書と認め、その後の伝統を認めず、復活も天使もないとした。聖書以外の伝承や復活信仰などを認めるファリサイ派とはしばしば対立していた。
- ・ 「柴の箇所」(37節) : 出エジプト記 3:6、もとの箇所ではモーセの言葉ではなく守護自身の言葉。「モーセ五書」はモーセ自身が書いたと信じられていたためこのような書き方をされている。この箇所で主はモーセに、自分はアブラハム・イサク・ヤコブという先祖たちと契約を結び、生きて働いてきた神だということを示された。

★説教

復活、よみがえり、ということを考えたことがありますか。教会では、毎年、イエスさまが十字架で一度死なれ、復活されたことを、イースターとしてお祝いします。また、わたしたちも、死んで終わりなのではなく、復活する 때가来るといわれます。

でも、復活を考えることは、とても難しいのです。ある人たちは「体が残っていないと復活のときに困るから、亡くなったときに火葬にはいけない」と言います。「復活したときに困らないように、お墓の中に生きているときと同じように飲み物や食べ物、家具などを入れておいてあげなければ」と考えた人たちもいました。「今と同じ苦しい生活が続くなら、復活なんてなくてもいい」という人たちもいます。今日の聖書に出てきたサドカイ派の人たちは、「夫がなくなって、次々とほかの人を夫にした女性は、復活のときにだれと結婚することになりますか。」とイエス様に聞きました。それがどうなるかを説明してもらわないと、復活は信じられません、といったのです。

どの考え方が正しいのでしょうか。答えは「神さまだけがご存知です」ということです。わたしたちがこの地上でどんなに天国や復活のことを考えたとしても、本当のことは神さまにしかわかりません。では、わたしたちは、天国や復活のことをまったく知ることはできないのでしょうか。

そうではありません。神さまは、わたしたちが天国はどんなところか、神さまはどんな方かを知ることができるように、イエス様を送ってくださいました。イエスさまは、神さまのことを言葉で教えてください、困っている人や苦しんでいる人たちと一緒にいてくださったりすることで、「ひとりひとりのことをどれくらい神さまが大切にしてくださっているか」を教えてくださいました。それが「すべての人は神によって生きている」ということです。

本当のことは、そのときが来てみないとわかりません。でも、わからないということで、不安になったりすることはありません。わたしたちは「イエス様を送ってくださいました神さまが約束してくださったんだから、天国も復活もきっととても良いものに違いない」と安心して生きていっていいのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

3 番

改訂 9 7 番

やってみよう

☆天国への道すごろくを作ろう

<用意するもの>

画用紙（人数分）・色マジック類・もちろん聖書

① ゴールを天国にして、聖書の出来事を使って、（日常生活の出来事も OK!）

自由にすごろくを作ってみよう。

ポイント（例）

- ・サドカイ派の人たちがイエス様に問答した。1 回休み
- ・神さまは、子ども達を祝福した。3 つすすむ。
- ・「すべての人は、神によって生きている」とイエス様が言われた。5 つすすむ。
- ・寝坊して、教会学校に遅刻した。1 つもどる。
- ・兄弟げんかをした。3 つもどる。

※時間があれば、コマも作って、すごろくで遊んでみよう。

★今週の聖句

「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。」

ルカによる福音書 21:19

★ ねらい

- ・ すべてが終わりに向かっていく中でも、イエスさまの恵みは離れないということを知る。

★ 説教作成のヒント

- ・ 聖書は終末の破滅を語るが、ここでイエスは恐怖や混乱をあおるために終末の予告をされたのではない。大切なのはそういった不安を煽るものに「惑わされてはならない」というご命令、破滅や迫害という困難の中でも神の恵みは決して離れることがない、という励ましである。
- ・ 教会暦は一巡し、季節もこれから冬へと向かう。すべてが死に絶えたように見える季節の奥深いところで、いのちを支え続けるものがある。こどもさんびか「球根の中には」など。

★ 豆知識

- ・ 6節：神殿は当時の人々にとって心のよりどころであった。紀元70年にローマ軍によるエルサレム鎮圧の際に神殿は破壊された。
- ・ 10節：戦争・飢饉・疫病は、終末に起こるとされる典型的な出来事のモチーフ。
- ・ 12節～：実際に初代のキリスト者はここに記されているような迫害にさらされていたことが、使徒言行録4章、5章、6～8章他に記されている。しかし13節にあるように、それらは王や総督の前で「証をする機会」となり、また遠く異邦人の土地にまで福音が広がるきっかけともなった。

★ 説教

「電池が切れるまで—こども病院からのメッセージ」（すずらんの会編 角川書店 2002年）という、1冊の本があります。長野県立こども病院というところの院内学級のこどもたちの書いた詩や作文を集めた本です。この「電池が切れるまで」という題は、ゆきなちゃんというひとりの女の子が書いた詩からとった題です。このゆきなちゃんという女の子は病気でなくなる4ヶ月前に、「いのちはとても大切、人間が生きるための電池みたいだ。でも電池はいつか切れる」という詩をつくれます。自分の電池がいつか切れるなんていうことは、あまり考えたことがないかもしれません。でも、わたしたちのいのちには限りがあって、何十年後、何年後、いつかわからなけれど、その電池は切れてしまいます。

その電池が切れるとき、終わるときのことを考えると、少し怖くなるかもしれません。聖書の中では「終末」という、この世の終わりのことが書かれています。今日の聖書でも、イエスさまは、立派な神殿のことを話している人たちに「あなたたちはいまこの立派な建物に見とれているが、いつかはこの建物も壊されてしまうときが来る」と言われました。そのイエスさまの話を聞いて、「それがいつ起こるんだろう」と心配になった人たちがいたようです。怖くて眠れなくな

った人もいたかもしれませんね。

しかし、イエスさまはただ怖がらせるために、このような話をされたわけではありません。イエスさまはお弟子さんたちに、こう言われました。「あなたがたの中には、大きな苦しみを受けて殺される人もいます。しかし、あなたがたの髪の毛一本も、決して神さまの手の中から、失われることはない」。わたしたちは苦しいことが起こると、「神さまはわたしのことが嫌いなんだ」と考えるかもしれません。しかし、イエスさまは、苦しいとき、つらいとき、さびしいときにこそ、神さまはあなたと一緒にいてくださる、ということをお教えました。

このゆきなちゃんという女の子は「いのちが疲れたというまで、むだにしないで生きよう」と、最後までせいいっぱい生きてそうです。どんなに苦しいことがあっても、大変なことがあっても、たとえ電池が切れるときでも、目に見えない神さまの恵みは、あなたから離れることはありません。そのことをしっかり、覚えていてくださいね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□120番

□改訂129番

やってみよう

☆クリスマスに向けて、献金箱を作ろう

<用意するもの>

トイレットペーパーの芯（人数分）・色画用紙（15×18cm）（人数分）・

白のコピー用紙（1～2枚）・ピンキングハサミ・セロテープ・のり・リボン・シール・カッター

① トイレットペーパーの芯を縦にして、上から2.5cmのところ、横向きにお金を入れるための切り口をカッターで入れる。（低学年はあぶないので、あらかじめ切っておいた方が良いでしょう。）

② 縦長に、芯の切り口が中央にくるように、画用紙を巻きつけ、セロテープで止める。

③ 芯の切り口に合わせて、画用紙に切り込みを入れ、上下の口の部分を折りたたむ。

④ コピー用紙を7×5cm位になるようにピンキングハサミで切り、横長にして、今日のみことば「忍耐によって、あなた方は、命をかち取りなさい。」ルカ 21：19 と書く。

⑤ 切り口の下にみことばを貼る。

⑥ リボンやシールで飾りつけろすればできあがり。

※来週からアドベントです。、少しずつ献金をして、クリスマス礼拝の時に神さまにお捧げしましょう。

※献金でなく、日々の神様への感謝の手紙をいっぱいにして、クリスマスにお捧げするのも良いですね。

その場合、切り口は少し長めにしてください。



★暗唱聖句

「見よ、お前の王がお前のところにおいでになる、
柔和な方で、ロバに乗り、荷を負うろばの子、子ろばに乗って。」
マタイによる福音書 21章5節

★ねらい

- ・イエスさまがわたしたちのために来てくださったことの意味を知る。
- ・イエスさまをお迎えする準備をはじめます。

★説教作成のヒント

- ・アドベントはイエスのお生まれを楽しみに待つ季節である。その喜びは大切にしたい。しかしそれと同時にキリストがなぜこの世に生まれてきてくださったのかということに、心を留めたい。へりくだって私たちのところに来てくださったイエスのことを覚え、それぞれのアドベントの過ごし方を考えたい。
- ・イエスは王として私たちのところに来られる。私たちはそのイエスをどのように迎えるだろうか。心の中の王座をイエスに明け渡す勇気が私たちにあるか。イエスを喜び迎えた同じ群衆は、扇動されたとはいえ、一週間後にはイエスを「十字架につけろ！」と叫ぶ群衆でもある。

★豆知識

- ・「アドベント」(待降節)というラテン語の本来の意味は「到来する」。「待つ」ことよりもむしろ「キリストが来られる」という出来事の方に焦点を当てたことばである。
- ・典礼色の紫は「悔い改め」「節制」「王なるキリストの尊厳」をあらわす。
- ・イザヤ書 62:1、ゼカリヤ書 9:9の預言の成就であったことが記されるが、マタイは特にここで「柔和」を強調する。軍馬ではなくろばに乗る王イエスは、神の謙遜と平和的支配の象徴。
- ・エルサレムの町中が「揺り動かされた」(10節)・・・「地震」を意味することば。

★ 説教

今日から、教会は新しい一年が始まります。教会の一年の始まりは「アドベント」といって、イエスさまのお生まれを待つところから始まります。クランツのろうそくに毎週一本ずつ明かりをつけていって、全部のろうそくに明かりがついたら、クリスマスです。わたしたちはこれからクリスマスの準備をしていきます。

生まれてくる赤ちゃんを迎えるときに、お母さんやお父さん、家族となる人たちは、どんな準備をするでしょう。赤ちゃんのベッドが必要ですね。赤ちゃんが風邪を引かないように、赤ちゃんの服も準備します。赤ちゃんが来るお部屋の掃除も必要でしょう。そして何より、やってくる赤ちゃんを、「生まれてきてくれてありがとう！」と喜んで迎える気持ちがたいせつです。

わたしたちもこれから、イエス様を迎える準備をはじめます。このアドベントという季節は、イエス様が来られる前に、わたしたちが心の準備をするときです。今日の聖書の中で、ろばに乗ってエルサレムというところに入ってこられるイエス様を、エルサレムの人たちが喜んでお迎えした、と書いてありました。そのように、わたしたちも、わたしたちのところに来てくださるイ

イエス様をお迎えする場所を、心の中につくります。

イエスさまは、マリアさんとヨセフさんが準備した、馬小屋の飼い葉おけのわらの寝床の中に、喜んで生まれてきてくださいました。決して豪華なベッドではなかったけれど、イエスさまはそこに喜んで生まれてきてくださったのです。だからイエスさまは、わたしたちがイエスさまのために考えて準備することがどんなに小さなことでも、とても喜んでくださいます。

どのようなことができるでしょう。たとえば、毎日お祈りをする。いつもより、おうちのお手伝いをひとつ増やす。いつもけんかしているお友達と仲良くするようにする。困っている人のために、お小遣いの中から少し、献金をする。イエスさまが喜んでくださるだろうな、ということ何かひとつ探して、クリスマスまで続けてみませんか。そして、みんなと一緒に、喜んでクリスマスをお祝いしましょうね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

82番

改訂65番

やってみよう

☆オーナメントを作ろう

<用意するもの>

色画用紙（濃いめの色、直径10cmに丸く切っておく）・ホワイトマーカー・麻ひも・穴開けパンチ

- ① ホワイトマーカーで、丸い画用紙に好きな絵を描く。（クリスマスツリー、くつした・星、赤ちゃんイエスさま、子ロバなど）
- ② 穴をあけて、ひもを通すとできあがり。

※お家のツリーや教会のツリーに飾りましょう。

みなさんは、ハンセン病について聞いたことがありますか？ ハンセン病はウィルスの感染によってかかる神経の病気ですが、昔は一度かかったら一生治らない恐ろしい病気だと考えられていました。そのためこの病気にかかった人は、家族から見捨てられるようにして、社会から切り離された山の中などにある専門の病院に強制的に入院させられました。そして、病院から一歩も外に出ることも出来ずに、一生、病院の中だけで、貧しく、厳しい生活をしなくてはならなかったのです。このハンセン病の患者さんのために、看護婦として一所懸命働いた女性に、井深八重さんという方がおられます。彼女は、お金持ちのおじさんの家で何不自由なく大きくなりましたが、22才の時に結婚を前にしてハンセン病だと診断され、何も知らされないまま、ハンセン病専門の神山復生(こうやまふくせい)病院に無理やり入院させられてしまうのです。結婚もダメになり、学校の先生の仕事も失って、社会から切り離されてしまった八重さんは、怖い所だと思われていたハンセン病の専門病院に入れられて、いったいどんな気持ちだったのでしょうか。

けれども彼女は、その病院でひとりのカトリックの神父さんに出会います。この神父さんは、恐ろしい病気だと思われていたハンセン病の患者さんたちと、笑顔で親しく交わり、この神父さんのもとの、患者さんたちが生きる喜びを取り戻しているのです。彼女はそこで、聖書の言葉と向き合い、神さまに従って生きることを深く考えさせられました。

その病院で一年の時が過ぎ、東京の病院で再び診察を受けた八重さんは、なんと自分の病気がハンセン病ではなかったことを知らされます。最初のハンセン病という診断は間違いだったのです。彼女は、晴れて自由の身になったのでした。

けれども彼女は、自分が出会った神父さんや患者さんたちを忘れることが出来ませんでした。彼女は看護師になるための学校に入学して勉強し、正式に看護師となって、自分が入院していた病院の看護師となったのです。人々の偏見が強かった時代に、社会から見捨てられてしまったような病院での仕事は本当に大変でしたが、彼女は高齢になるまで、患者さんたちのために献身的に働き続けたので

した。

今日の聖書の箇所ではイエスさまは、耳が聞こえず、上手くしゃべることが出来なかった人を前にして、「深く息をついた」、といます。それはイエスさまが、目の前の人の苦しみを、自分の苦しみのように感じて、深く共感した、と言う意味です。

わたしたちは、イエスさまのように病気を治す不思議な力は持っていません。けれども、イエスさまのように、困っている人、苦しんでいる人の姿を見て、その人の気持ちを想像してみることが出来ます。もしわたしたちが、そのような想像力をもっているのであれば、困っている人を目の前にした時に、自分が出来ることをすることによって、小さな事でも、何か手助けをすることが出来るのではないのでしょうか。

イエス様はたくさんの人々に神様のお話をしてくださいました。イエス様のお話を聞いた人は、不思議と心が暖かくなりました。もっともっとイエス様のお話が聞きたくなりました。イエス様の服にさわった女の人は、長い間苦しんできた病気が治ってしまいました。もう治らないと思っていた病気がすっかり治ってしまい、びっくりしました。この女の人は病気が治ってとてもうれしかったと思います。わたしたちはそういったお話を聞くと、やっぱりイエス様は神様の子なんだと思います。

ある日、イエス様は子どもの時にお過ごしになったナザレという村にお帰りになりました。礼拝堂で神様のお話をしてくださいました。聞いていた人たちはお話をしてくださいましたイエス様をよく知っていました。「この人はあの大工のせがれでしょ、マリアの息子よ。何でこんな知恵のあふれた言葉を話すの?」「あの兄弟のひとりよ、こんな奇蹟をするなんてありえない。何かしかけがあるんじゃないの」。村の人たちの中には、子どもの時、イエス様と一緒に遊んだ仲間かもしれません。イエス様と一緒に食事をしたこともよく覚えていたかもしれません。服装も自分たちと特別に変わっていません。ですから村の人たちは、イエス様を自分たちと同じ人間としか見れませんでした。イエス様を神様の子と信じることはできなかったのです。

でも、わたしたちはイエス様が神様の子であることを聖書から知らされています。イエス様は十字架の上で死なれましたが、三日後にはよみがえってくださいました。イエス様は復活という大きな奇蹟をしてくださった神様の子です。イエス様はわたしたちと変わらないからだを持っておられます。マリアのお腹からお生まれになりました。イエス様は子どもの時代には友だちと一緒に遊んだり、仕事の手伝いをされました。イエス様はわたしたちと変わらないからだを持って生きてくださった神様の子です。イエス様が語られた言葉は、神様のお言葉です。だからわたしたちはイエス様のお言葉を聞くと心が暖かくなるのです。